

■ 室蘭地域マリンビジョン協議会報告について

～地域マリンビジョン計画の改訂～

室蘭地域マリンビジョン協議会事務局
室蘭市経済部農水産課 主幹 相原清一

室蘭地域のマリンビジョン計画は、平成 18 年 3 月に策定され、当時は「追直人工島：通称 M ランド」の早期完成など漁港整備に主眼を置いた追直漁港整備構想（M ランド構想）に対して、「漁港からのまちづくり」をコンセプトに、M ランド整備後の利用方法やソフト事業の推進などをマリンビジョン計画に位置付け、漁業関連者のみならず、商業者や地元住民を巻き込んだ活動を積極的に展開してまいりました。

こうした中で、平成 25 年 3 月に待望の M ランドが完成し、今後の具体的なビジョンが必要になってきたこと、また平成 26 年には、北海道マリンビジョン 21 が改訂され、概ね 10 年先の北海道水産業の将来像が示されたことから、本市のマリンビジョン計画についても、昨年からワークショップを何度も開催して見直しを進め、平成 27 年 3 月 27 日に改訂版地域マリンビジョン計画の報告会を平成 27 年 3 月 27 日に開催しました。



まず事務局から改訂版マリンビジョンの概要報告を行い、地域マリンビジョンの対象地域が見直され、「室蘭追直地域マリンビジョン」から「室蘭地域マリンビジョン」へ拡大したことを報告しました。本市内には第 3 種漁港の追直の他、第 1 種漁港のイタンキ、室蘭港の崎守漁港区と絵鞆・祝津漁港区を有し、従来から複数の漁港を相互に補完・連携しあって水揚げや出荷が行われており、地域の水産業や将来像を考えていく中で室蘭地域全体を俯瞰する計画となったことを説明しました。

2 点目として、今般の漁業者の高齢化の進展や、後継者・就業者不足への対応、安全・安心な漁業地域づくりといった新たな課題に対し、漁業振興、水産物流通・加工振興まちづくり推進の 3 つの「構想」の「計画体系」を見直して、今後 10 年間に取り組んでいく内容を示しました。

3 点目として、より実行力のある組織とすべく、協議会の会則と組織体制の変更について報告しました。

続いて、新たに会長として選出された室蘭漁協の室村組合長から挨拶をいただき、まず参加メンバーに対して、何度も行ったワークショップ参加への謝辞とともに、10 年後の室蘭市がさかなのまちとして全国的にも有名となって、まちも元気づいているよう実現に向けて頑張ってもらいましょうと述べられました。

後半は、マリンビジョンの取組事例の報告を行いました。

まず、函館開発建設部の佐々木漁港対策官から、「Face book（FB）を活用した情報発信による漁村地



域の活性化」について説明していただきました。

羅臼や歯舞など他地域の取組状況や、情報発信の現状と課題、そしてFBの概要とメリットを述べられ、FBが持つ情報拡散性や口コミ情報的な利用の仕方や人脈の創造・波及が可能であることなど、貴重なご意見をいただきました。

次に、本協議会のオブザーバーである室蘭工業大学の古屋准教授から、「水産物の鮮度保持試験」と「輸出先の風土を考慮した北海道水産物の海外販売戦略に関する研究」についてご報告がなされました。

「水産物の鮮度保持試験」では、シャーベット氷を試験的に利用して、サケやスケトウダラ・マダラなど室蘭で獲れる魚種を対象に水揚げから流通先までのK値や温度変化を測定し、効果を分析・検証していただきました。

また、「輸出先の風土を考慮した北海道水産物の海外販売戦略に関する研究」では、室蘭活ホタテ3年貝「蘭扇」をはじめ、スケトウダラやマダラをHOP1の仕組みを利用して香港へ送り込み、現地の居酒屋やすし店などを対象に試食商談会を実施し、評価やニーズ調査の結果を報告していただきました。

私どもの地域マリンビジョンにおいて、古屋准教授が中心となって実施した取り組みは、初の試みで大変有意義なものとなり、今後のハード整備や海外輸出促進に役立てられていくと考えております。

最後となりますが、現在、新たなマリンビジョン計画に沿った取り組みとして室蘭活ホタテ3年貝「蘭扇」プロジェクトを始動中です。明るく大きな夢となるよう頑張ってまいりますので、また、いつかこの紙面でご報告できれば幸いです。

